

NGO-労働組合国際協働フォーラム 2019/2020 年 活動報告書  
(2019 年 9 月 1 日～2020 年 8 月 31 日)

## はじめに

今期の前半はメンバーのフォーラム活動や意思決定への参加促進を主目的として意思決定方法やメンバー制度に関する規約の改訂や、本フォーラムとしての広報の在り方を検討するための聞き取りをメンバーの協力を得て進めた。2020 年初以降は新型コロナウイルス感染症の流行を受け、ミーティングを始めとした関連イベントが相次いで中止となり、各グループは年度後半の活動の見直し・縮小を余儀なくされた。そのような中で、例年 7 月に開催してきた本フォーラムとしての一般向けセミナーに代わる取り組みとして、新型コロナウイルス感染症流行が3つのグループのテーマにどのように関連するのか、流行下の今だからこそ発信したいメッセージを動画として制作した。前半で立てた広報方針を踏まえ、YouTube および Facebook といった幅広い層がアクセスできる媒体において公開をし、今後活用できる広報ツールを増やすことが出来た。

## I. フォーラム全体の活動

### 1. 活動体制

#### 1) 規約の改訂

メンバーの意思決定への参加の促進のため、主に以下の改訂を行った。改訂にあたってはメンバーへのメールでの聞き取りを 2 回行い、案を精査した。

- (1) 意思決定の場の整理:活動方針、活動計画、予算の協議と承認、グループ・タスクチームの承認を行ってきた合同企画委員会と報告・決算を承認してきた「全体会」を廃止した。全メンバーが参加する「総会」で活動計画・予算および活動報告・決算の承認や、グループ・タスクチームの承認など活動に関する事項と決定することとした。合同企画委員会が担っていた年間を通じたフォーラム活動の進捗確認や相談・確認の機能については、グループからの代表者と協働事務局から構成する「連絡調整会議」を新設した。
- (2) 参加 NGO 制度の廃止:メンバー全員の事業への参加を促進するために統一化した。
- (3) メンバーの活動への参加:グループ活動ないしタスクチーム活動への所属を義務化した。
- (4) 協働事務局業務の明確化:事務手続きの適正化にむけ、本フォーラム口座に関する金融機関届け出名義や使用印鑑について明文化されていなかったため、整理の上、明文化した。

#### 2) 会合開催

第 90 回以降の合同企画委員会は全メンバーに開催を案内し、出席を可能とした。また新型コロナウイルス感染症流行を受け、第 90 回よりオンライン会議システムを利用して開催した。

第 89 回合同企画委員会兼全体会	2019 年 10 月 30 日
第 90 回合同企画委員会	2020 年 1 月 30 日
第 91 回合同企画委員会	2020 年 4 月 2 日
第 1 回連絡調整会議	2020 年 8 月 3 日

#### 3-1) グループ活動

グループ活動は、次の 3 つの課題別グループとする。

- ・ 児童労働グループ【ゴール 8】
- ・ HIV/AIDS 等感染症グループ【ゴール 3】
- ・ 母子保健グループ【ゴール 3,5】

新規グループ活動の設立は常時可能な中、ACC21 より「ストリートチルドレンへの支援」に関するテーマでの新設の可能性が検討されていることが表明された。

### 3-2) タスクチーム

タスクチームは、本フォーラムの主軸である課題別グループ活動の発展支援と、SDGs 達成に向けて協働することに関心のある NGO と労働組合関係者に対する本フォーラムの活動発信を行うために設立できるとしていた。今期前半の広報戦略の確認や後半の広報媒体の検討やメッセージ動画策定に関する取り組みは協働事務局が担った。

### 4) 会費

NGO メンバー16 団体、労働組合メンバー14 団体から遅滞なく納付があった。

### 5) 参加 NGO 制度

規約改訂により制度自体が廃止となった。

## 2. 共通活動計画

### 1) 広報活動

本フォーラム概要や各グループ活動情報を発信するための広報媒体の検討を行った。

フォーラムメンバー内の情報共有の促進のために、メーリングリストを新設した。

一般向けの広報媒体としてはパンフレットの作成を検討したが、2020 年 1 月以降の新型コロナウイルス感染症の流行を受け、紙媒体の利用機会が減少する可能性を踏まえ企画のみにとどめた。他方、広報タスクとして例年のシンポジウムに代わるメッセージ動画制作を実施したため、その普及の観点から本フォーラムとしての Facebook ページおよび YouTube チャンネルを新設した。

### 2) キャンペーン支援

本年度はメンバーからの申請がなかった。

## 3. 事務局体制

本フォーラムは、その事業遂行にあたり、労働組合側事務局として日本労働組合総連合会(連合)、NGO 側事務局として(特活)国際協力 NGO センター(JANIC)が共同で事務局を担う。但し、グループおよびタスクチーム活動の事務局は各グループおよびタスクチームのメンバー団体の協議により決定する。

## II. タスクチーム活動

### 1. 広報タスクチーム

#### 1) 基本目標と活動

- ・本フォーラムの広報にかかる方針と戦略の策定。
- ・外部向け会合や媒体の企画策定。

#### 2) 活動実績

次の 4 本のメッセージ動画を制作した。

- ・NGO-労働組合国際協働フォーラム～コロナ禍での SDGs 実現に向けて～(統合版)
- ・NGO-労働組合国際協働フォーラム～コロナ禍での SDGs 実現に向けて(児童労働グループ編)～

- ・NGO-労働組合国際協働フォーラム～コロナ禍での SDGs 実現に向けて(HIV・エイズ等感染症グループ)～
- ・NGO-労働組合国際協働フォーラム～コロナ禍での SDGs 実現に向けて(母子保健グループ)～

### Ⅲ. 課題別グループ活動

#### 1. 児童労働グループ【ゴール 8】

##### 1) グループの基本目標

世界には 1 億 5200 万人、世界の子どもの 10 人に一人が児童労働をしている現状がある(ILO、2017)。SDGs には、目標 8 のターゲット 7 に「2025 年までにすべての形態の児童労働を終わらせる」ことが掲げられた。当グループは、労働組合と NGO の連携を通じ、児童労働ネットワーク(CL-Net)とも協力しながら、児童労働問題の解決に向かうことを基本目標とする。

※児童労働ネットワーク(CL-Net)とは

児童労働に問題意識をもち、日本からこの問題の解決に貢献することを目指す NGO、労働組合などが加盟するネットワーク。

##### 2) 2019/2020 年の目標

労働組合員や一般市民への児童労働問題の啓発活動を行い、児童労働の現状への認知を広げる。また「児童労働は自身も取り組むべき問題である」という認識を高め、解決のために自ら行動を起こすよう促す。

##### 1) 参加組織

<労働組合:6 組織>

- ・IUF-JCC
- ・自動車総連
- ・JAM
- ・情報労連
- ・日教組
- ・UA ゼンセン

<NGO:4 組織>

- ・アムネスティ・インターナショナル日本
- ・ACE <事務局>
- ・国際労働財団
- ・シャンティ国際ボランティア会

##### 2) 活動実績

###### (1) イベント開催、出展

###### ① 連合第 16 回定期大会

日時:2019 年 10 月 10 日-11 日

場所:新宿文化センター

活動内容/実績:児童労働に関するタペストリーの展示や、ブースへのグループ活動紹介チラシの設置を行った

上記以外にも、イベント出展を通じた啓発活動を計画していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、イベントの開催中止や開催方法変更、規模縮小により出展機会がなくなり、実施することができなかった。

- ・3月 国際女性デー集会会場における啓発カフェの運営(母子保健グループとの共催):集会自体が中止になったことを受け、開催中止
- ・4月 連合第91回メーデー中央大会:Web開催のため出展中止
- ・8月 JAM 定期大会:Web開催のため出展中止

## (2) 啓発ツールの作成と情報発信

児童労働をなくすためにできることを伝え、アクションを促すことを目指し、より手にとりやすい新たな啓発チラシを作成した。当初は4月の連合第91回メーデー中央大会出展ブースでの配布開始を目指していたが、メーデーがWeb開催になり出展が中止になったことを受け、より時間をかけて議論を進めることができた。年度内の印刷完了には至らなかったため、2020/2021年活動の中で活用していく。

また、フォーラム全体の取り組みとして、メッセージ動画を制作し、児童労働グループとして、児童労働の現状と新型コロナウイルス感染拡大による影響、私たちにできることを伝えた。啓発ちらしの内容検討の中で、情報を整理していたことが活かされ、チラシと動画で共通のメッセージを伝えることができた。

その他、UA ゼンセン手帳のマンスリーカレンダーの6月12日の欄に「児童労働反対世界デー」が明記され、JAM 機関紙(5月発行)に「6/12は児童労働反対世界デー」の記事が掲載された。

## (3) CL-Net と共同事業

「ストップ！児童労働キャンペーン2020」の広報協力を行った。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、フライヤーの印刷は行わず、SNSにレッドカード画像を投稿する「おうちでレッドカードアクション」や、Facebookのプロフィール写真に「児童労働にNO フレーム」フレームをつけるアクションへの参加を呼びかける形でのキャンペーン実施となった。キャンペーン期間が3週間と短かったこと、労働組合の会議等でのレッドカードアクションを行うことが難しい状況ではあったが、労働組合の公式ページのFBフレームが変更されるなど、新しい形での連携、広報協力を行うことができた。

### 【キャンペーンの実績】

＜レッドカードアクション＞

投稿枚数:120枚(2020年方針として、事務局がカウントするSNSはInstagramのみとした)

(過去実績 2019年:1,536枚、2018年:368枚、2017年:221枚)

キャンペーンフライヤー配布枚数:作成なし(2019年作成枚数:11,200枚)

## (4) グループ会議、勉強会等

＜グループ会議＞

2019年9月3日、10月24日、12月17日、2020年2月5日、2月21日、  
5月27日

＜勉強会＞

開催なし

### 3) 成果と課題

#### <成果>

- ・ 2019-2020 年度活動検討の際に、既存の活動を整理し、これまでの取り組みの位置づけと今後の活動の展開についてメンバー内で確認することができた。メンバーの入れ替わりもある中で、各活動の目的や意義について合意した上で、年度をスタートできた。
- ・ 労働組合の手帳や刊行物で6月12日は児童労働反対世界デーであることを伝えることができた。2021年は国連が定めた「児童労働撤廃国際年」であることを追い風に、ひきつづき児童労働について目にする機会を増やせるよう取り組んでいく。

#### <課題>

- ・ グループメンバー自身の理解を深めるため、グループ内勉強会の開催や、児童労働や子どもの権利に関わるイベントにメンバーが参加すること、イベント情報を共有し各組織内で発信することを計画していたが、実際には十分に行うことができなかった。まずは、メンバー間で相互にイベント情報や関連ニュース、参考 Web サイト等の情報を共有することから始めたい。
- ・ これまで伝える場として、対面イベントを中心に活動を組み立ててきたが、今後はオンラインでの発信にも力をいれていく必要がある。フォーラムの YouTube チャンネルなども活用し、オンラインでの情報発信にも取り組んでいきたい。
- ・ グループミーティングの開催も、オンラインのみ、またはオンラインと対面の組み合わせとなっていくと思われる。オンライン環境(マイク、ビデオカメラ、インターネット環境等)には、個々に差があることを鑑みつつ、コミュニケーションの方法を試していきたい。

## 2. HIV/エイズ等感染症グループ【ゴール3】

### 1) 基本目標

SDG の目標 3「あらゆる年齢の全ての人々の健康な生活を保障し、福祉を促進する」のターゲット 3.3 として、「2030 年までに、エイズ、結核、マalaria 及び顧みられない熱帯病といった感染症を終息させるとともに肝炎、水系感染症及びその他の感染症に対処する」と挙げられている。また、全ての人々が経済的困難に直面することなく必要とする保健医療サービスを受けられることをめざすターゲット 3.8「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの達成」も世界の目標として重視されている。これを踏まえ、SDGs が目指す「誰一人取り残さない」社会を実現するために、当グループは SDGs 目標3の HIV/エイズを中心に感染症に関する課題に対して取り組む。

NGO と労働組合が協力し、労働組合員や一般市民に対して、国内外の HIV/エイズ等感染症の現状と正しい知識を伝え、予防と、職場内の差別や偏見の解消を図り、国際的な取り組みを行う。労働組合・NGO 双方のネットワークを通じて、その活動への支援参画を促す。

### 2) 2019/2020 年目標

- ・ HIV/エイズやその他感染症に関する課題について、一般市民・労働者への啓発に貢献する。
- ・ グループ参加団体が、HIV/エイズやその他感染症に取り組む関係組織との協力関係を強化する。
- ・ グループ参加団体がより一層 HIV/エイズ問題に関する知識を深めるため、グループ参加団体個々の持つ知見を共有し、より効果的に啓発活動を行えるよう研鑽に努める。
- ・ グループで作成した啓発プログラムメニューを使用した、ワークショップや勉強会を、積極的に実施する。

### 3) 参加組織

- ・労働組合:3組織
  - ・IUF-JCC
  - ・インダストリアルJAF
  - ・BWI-JAC(実質参加なし)
- ・NGO:3組織
  - ・シェア＝国際保健協力市民の会
  - ・アフリカ日本協議会<グループ事務局>
  - ・国際連帯税フォーラム

### 4) 活動実績

#### (1) 主催／共催イベント

##### ① 保健にかかわる労働組合のニーズとNGO/NPOの協力の在り方を探る「座談会」(主催)

- 実施日:2019年12月12日
- 場所:味の素労組
- 参加人数:8人
- 内容:労組より通常の活動のなかで感じている課題などを話していただきながら、互いの活動に関する情報共有と協力の可能性についての座談会を行った
- 参考:[http://ajf.gr.jp/20191212globalhealth\\_ngo-and-labor-union/](http://ajf.gr.jp/20191212globalhealth_ngo-and-labor-union/)

##### ② ミュージカルイベント (共催)

- ◆ 実施日:2019年1月13日
- ◆ 場所:きゅりあん小ホール(大井町駅)
- ◆ 参加人数:500名
- ◆ 内容:NGOシェアの東ティモールでの活動を実話を基に描かれた、ホットジェネレーション・フレンドシップミュージカル「東ティモール2020～君から届いたメッセージ～」が上演されました。このミュージカルに協力し、劇場ロビーに専用ブースを設けたほか、エイズに関するメッセージの入ったポケットティッシュを配布し、啓発活動を行いました。

##### ③ 『日本で暮らす外国人女性の本音を聞いてみよう&語り合おう!』～外国人の方々のヘルスケアを実践するNGOの視点から～(共催)

- ◆ 実施日:2019年9月8日
- ◆ 場所:SHUGARMARKET渋谷店
- ◆ 参加人数:30名(医療従事者、マスコミ、大学講師など)
- ◆ 内容:言語・労働・医療サポート・子育てなど、それぞれが抱える想いを外国人に直接聞き、外国人の現状を理解することを目的にトークイベントを行いました。さらに、外国人の方々の医療・保健衛生面からサポートするNPO・NGOから、彼らが今直面している問題についても説明をして、より理解を深めてもらうことができました。

##### ④ 『エボラウイルス病対策に取り組んだ医師に途上国での新型コロナウイルスの対策のヒントを聞いてみよう』(共催)

- ◆ 実施日:2020年7月17日

- ◆ 場所: :オンラインZoomにて
- ◆ 参加人数:237人(学生、医療従事者、会社員など)
- ◆ 内容:コンゴ民主共和国において、国立国際医療研究センター国際医療協力局付のJICA専門家として、保健人材の育成とエボラ対策に2020年3月まで携わった医師(仲佐保氏)によるトークイベントを行いました。コンゴ民主共和国でのエボラウイルス対策から、特に今後第二波も予想されている開発途上国での新型コロナウイルス対策へのヒントについて具体的に学ぶことができる内容となりました。

#### (2)グループ会議、勉強会等

グループ会議は以下の日程で開催した他、打合せにはメールを活用しました。

日時:2019年9月13日、10月31日、12月18日、2020年2月5日、6月5日、7月28日、8月18日

参加人数:7人

#### 4)成果と課題

##### <成果>

・労働組合とNGOが互いに知り合うという原点に戻り、座談会を開催しました。意外と知らないことも多く、まずは普段どのようなことに取り組み、何を課題と感じているのか、などの情報交換をすることができました。後半は新型コロナ感染症によりイベントがほとんどキャンセルとなり、また通常業務が大きく変化したことから、座談会の開催もありませんでした。ただし、座談会の開催についての合意は得られているので、2020年の秋に開催します。後半、コロナ禍においてイベントの開催が難しくなったことから、ウェビナーの共催を行い、広く感染症についての啓発を進めることができました。

・HIV/エイズを含む感染症についての理解を深める場づくり:ミュージカルでは、感染症について、入場待ちの方々にティッシュを配布したり、ブース出展を通してメッセージを伝えました。

##### <課題>

・労働組合とNGOの日程調整の難しさや新型コロナ感染症の影響により、座談会が一度になってしまいました。ただし、2020年秋の開催はすでに決まっているため、引き続き労組とNGOの情報共有、意見交換の促進を行います。

・後半はイベントの開催が困難になったため、積極的な活動を展開することは難しかったといえます。ウェビナーの開催を行うにも、ハード面の環境整備、およびプラットフォームが必要になりました。今年度はウェビナーの開催等も慣れてきており、特にコロナ禍における保健課題についてウェビナーで発信を行っていく予定です。

### 3. 母子保健グループ【ゴール 3, 5】

#### 1)グループの基本目標

- (1) 労働組合とNGOが協力し、国際的な母子保健の課題について継続的かつ分かりやすい啓発活動を行い、組合員や一般市民に課題意識を高めてもらう
- (2) 妊産婦保健と乳幼児保健の実質的な改善につながるよう、実現可能なアクションへの参画を拡大化させる

#### 2)2019/2020年の目標

- (1) 「持続可能な開発目標」(SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS: SDGs) (2016-2030)

### ゴール3: あらゆる年齢の全ての人々の健康的な生活を確保し福祉を促進する

を達成するために、母子保健の視点から課題解決に向けた活動に取り組むとともに、開発途上国の妊産婦の健康や、国内の女性のリプロダクティブヘルス/ライツ(ゴール5)などの課題について多くの市民、労働組合員に発信する

#### 3) 参加組織

組合

- ・全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会(電機連合)
- ・日本基幹産業労働組合連合会(基幹労連)
- ・国公関連労働組合連合会(国公連合)

NGO

- ・公益財団法人ジョイセフ<事務局>

#### 4) 活動実績

##### (5) イベント開催、出展

- ① 連合大会 10月9日、10日(新宿文化センター)パネル展示
- ② 連合女性中央集会 10月17日(よみうりホール)チラシ配付
- ③ 電機連合中央委員会 1月23日、24日(パシフィコ横浜)3000人  
活動内容/実績:コーヒー試飲・物販・チラシ配付
- ④ 国公連合中央委員会 1月27日(連合会館) 50人  
活動内容/実績:コーヒー試飲・物販・チラシ配付
- ⑤ 中央労働金庫労働組合へチラシ送付

##### (6) グループ会議、勉強会等

<グループ会議>

- 1月9日(ジョイセフにて)(電機連合/基幹労連/国公連合/ジョイセフ)
- 4月23日(木)13:00~ LINEビデオ通話会議  
(電機連合/基幹労連/国公連合/ジョイセフ)
- 5月21日(木)13時~ LINEビデオ通話会議  
(電機連合/基幹労連/ジョイセフ)
- 6月18日(木)13時~ ZOOM会議  
(基幹労連/国公連合/ジョイセフ)
- 7月17日(金)14時~ ビデオ収録ジョイセフにて  
(基幹労連/国公連合/ジョイセフ)
- 8月31日(月)13時~ ZOOM会議  
(電機連合 細川・高橋・大林/基幹労連 秋山/国公連合 岡本/  
ジョイセフ 佐藤)

<勉強会> 実施せず。

#### 4) 成果と課題



新型コロナウイルスの影響のため、2月からの活動ができなくなったことで、後半に予定されていた大きなイベントの実施ができなくなった。また勉強会や、各地の組合への訪問など全て実施不可となってしまった。今までの対面、集うといった中での周知活動からオンラインに切り替えるなど工夫が必要と思う。

以上